

感を与えないよう、交通マナーを心掛けましょう。思いやりと感謝の気持ちは大切にしたいですね。これは、車やバイクの運転手だけが守るものではありません。自転車や歩行者も道路交通法で定められたルールがあります。道いっばいに広がったり、急に飛び出したりすることは危険です。車の存在を意識し、お互いに気持ちよく通行できるように心掛けましょう。

大切な人と 交通安全を考える

交通事故はさまざまな要因が重なり、突然起こります。もし家族

が加害者になってしまったら、大切な人が交通事故にあってしまつたら、大切な子どもが登下校中に事故に巻き込まれていたら。そう考える人も少なくはないと思います。交通安全への意識を高めるためには、家庭や学校、プライベートで交通事故や交通安全に関する話題を取り上げることです。そして、自分の家の周辺や通勤、通学路のどこが危険で、どういうことに気を付けなければいけないのか具体的に確認することが重要です。そうすれば自然と意識するようになり、事故に遭わない、起こさないことにつながります。

取材を終えて

事故はいつでも私たちの身近で発生する可能性があります。車は便利で楽しいプライベート空間かもしれませんが、道路は違います。危険性を十分に認識してルールとマナーを守り、より一層の思いやりの気持ちと余裕を持って運転しましょう。

まずは身の周りの危険な場所や気を付けるべきことについて、家族や大切な人と、ゆっくり話をしてみましよう。それがみんなの笑顔を守るにつながるはずで

終

ルールを守れば事故は防ぐことができる
相手への思いやりと感謝の気持ち忘れずに



菊川警察署交通課
多田義人課長

被害者、加害者にならない

【歩行者】

- ・歩き慣れた道でも必ず横断歩道を渡る
- ・車は急には止まれないことを意識
- ・交差点では必ず左右の確認
- ・道路付近で遊ばない
- ・反射材を身に付ける
- ・夜間は懐中電灯を持つ
- ・並列で歩かない



【自転車】

- ・イヤホンをつけて、音楽を聴きながらの運転はやめる。周囲への集中力が低下し、危険を知らせる合図も聞き逃してしまう
- ・歩道は歩行者優先。車道寄りを徐行運転
- ・自転車も車両ということを意識する
- ・蛇行運転など危険な運転はしない
- ・夜間は必ずライトを点灯

